

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871800223		
法人名	株式会社ほむけあ いしやま		
事業所名	グループホーム想想		
所在地	茨城県坂東市岩井2039		
自己評価作成日	2020年12月1日	評価結果市町村受理日	2021年2月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvssvoCd=0871800223-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;ligvssvoCd=0871800223-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2021年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年認定こども園様との交流があり、さつまいも掘りなど、施設の畑でいろいろな野菜などを作り収穫しています。近隣の方々には、交流会や運営推進会議への参加、防災訓練においても協力を得ています。又、職員一人一人が勉強会や研修に参加しケアの質の向上に努めています。生活リハビリなどを取り入れ、利用者様の意思を尊重し、安心して、その人らしい生活を送れるように支援してゆきます。12月1日より併設しているデイサービスが定員6名のグループホームに移行しました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型の施設として、地域に向けた様々な交流を行い受け入れられているが、現在はコロナ禍で交流が難しい状況となっている。職員はレベルアップに向けて勉強会や研修に参加し、受講後は伝達研修を行って全職員で共有している。昨年12月に1ユニット増設。新たな利用者との和気あいあいとした生活を過ごしている。ユニット増設の際、認可されるまでがスムーズであったことから、改めて、日頃からの行政との連携が大切であると認識したとの事。職員・利用者が感染した場合のマニュアル・必要物品・シミュレーションを実施し、代表の責任下に於いてゾーニングも確率している。  
\*新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい ○ 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は日々、理念や個別のケアについて話し合い共有している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、申し送り時やミーティングで確認し、実践につなげている。月間・年間目標をたて、事業所会議で評価している。全職員が統一化した個別ケアを実践している。利用者の変化を見逃さないよう職員は細心の注意を払っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年こども園様と交流している。自治会や商工会に加入し、各種行事の参加などで地域の方と交流している。	以前は自治会・商工会に加入し、イベントなどで地域住民と交流していた。こども園園児との交流やボランティアの受け入れは現在中止となっている。中学生を対象とした認知症サポーター養成講座も中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	一人のためにをモットーに入居者様の想いに応え、住み慣れた地域で自分らしく暮らせるように支援してゆきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月月に1度、入居者様、御家族様、地域の方々、行政の方、ホーム職員とで開催し行事や近況報告などしている。地域での困りごとの話し合いをしている。	2ヶ月毎に利用者・家族・区長・民生委員・地域住民・行政が参加しており、議題によっては警察署・消防署・歯科医の参加と事業所担当者のメンバーで開催することもある。事業予定・報告・近況報告等を議題としているが、現在は感染対策として書面報告のみとなっている。家族には事前に意見等を聞き、フィードバックしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の連絡協議会に参加し適切な助言が受けられるよう関係機関と定期的に連絡を取っている。	担当課とは連絡を密にとり、協力関係を築いている。コロナ以前はこども園(サツマイモの苗植え・収穫・お遊戯会)・小学校(運動会見学)・中学生の体験学習を受入れていたが、現在は中止となっている。グループホーム連絡協議会・ケアマネ会は電話連絡で情報交換をしている。子供110番はコロナ禍の為、設置を見合わせている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的虐待や心理的虐待への理解を得るため2ヶ月月に1度、勉強会をひらいている。日中は玄関の施錠はせずいつでも行き来できるようにしている。	安心・安全委員会を設置し、2か月毎に勉強会(欠席職員は議事録を確認し押印)を実施し、利用者の行動を制限することなく、見守り支援を実施している。玄関は施錠はしていないが、チャイムで知らせる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会のテーマに挙げ取り組んでいる。職員間のコミュニケーションを多く持ち、一人で抱え込まない環境づくりに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は自主的に学ぶ機会を持ち理解を深め、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時や改定等の際は、管理者を窓口し、入居者様やご家族様に、十分な説明を行い、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1度、お便りを発送している。運営推進会議において、頂いた意見を参考に活用している。	意見箱の設置・重要事項説明書に苦情窓口・第3者機関名と電話番号を明示している。以前は家族会を開催していたが、面会時や電話連絡時に話をきくことが多い。現在はコロナ禍なので面会は遠慮しますと申し出る家族が多く、少しでも家族が安心できるよう、全力で利用者の支援をしていることを伝えている。2ヶ月毎に便りを発行し、日ごろの様子を伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見や提案を聞くと同時に、月1回の会議において話し合い反映させている。	代表は職員の意見や要望に耳を傾け、働きやすく、スキルアップ・資格取得支援・福利厚生の実等、働きがい甲斐のある職場環境づくりに努めている。会議には代表も出席し、職員の意見の吸い上げに努めている。管理者・職員との関係は良好で、様々な意見を言いやすく、ストレスや不満はないとの事。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己目標を設定をし、それに伴う評価を行い各自が向上心をもって働けるように工夫している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に積極的に参加し、職員間で共有している。職員全員が参加できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡協議会に加入し、同業者との交流や勉強会に参加しサービスの質の向上に生かしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居受入時に職員が複数回面会に行き入居時の不安を軽減できるように努めている。面会の様子を記録に残し職員に周知出来る体制を取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や手続き等、ご家族が困っている事や不安に思っている事がないかお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族・転居前の施設職員等に情報収集を行い、何が出来るか、何が必要か、を知り、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の主体性を尊重したケアを心掛けています。家事手伝いなどを通じて、暮らしを共にすることができている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1度のお便りで近況報告するとともに、体調に変化があった場合その日にうちに電話連絡している。行事時は多くのご家族に参加して頂けるよう関係の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に係わりのあった友人、知人など、来訪されることがあり、馴染みの関係を築きながら安心して生活できる体制を取っている。	利用者が電話や手紙など、希望の手段で家族等と連絡を取り合うことを支援している。コロナ禍前は家族・友人・知人の面会があり、お墓詣り・外出・外食に出かけるなど、なじみの大切な人との関係継続ができていた。利用者同士や職員との関係が深まっている。理・美容院に出かけていた利用者は、現在、2ヶ月毎に訪問理・美容を利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事などで交流する機会があり、朝にラジオ体操を行いホーム全体で関わり合いが持てる環境がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	葬儀に参加させていただいたり、退去された方の郵便物が届いた際は電話で連絡を取り合ったりと、御家族へのフォロー体制がある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームでの生活に対する意向は介護計画の更新の度、アセスメントしニーズを取りこぼさないようにしている。	日々の会話から利用者の思いや希望を把握し、全職員で共有し支援している。趣味の継続や家事で意欲向上に繋げている。生活リズムは利用者に合わせて対応となっている。困難な場合は表情・様子から把握し、利用者本位に検討し、それが適切かどうかの確認をしながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様からの情報収集の把握に努め、これまでの生活歴を考慮したケアに取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ない事より出来る事に焦点を当てる事でその方の力を発揮できるケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や医師の意見を取り入れ、利用者の要望に沿った介護計画を作成している。	家族・利用者から意見や要望を聞き、担当職員が主となって、2018年度からの課題整備統括表をもとに、取りまとめた内容でカンファレンスを行い、ケアプランを作成している。作成後は家族に説明し、同意を得ている。モニタリング・評価を毎月実施し、現況に即したプランを作成している。ケース記録にはその利用者への関わり方・考案が記録されている。前回の評価をうけ、昼間と夜勤帯をわかりやすく色分けして記録した。	利用者のその時の様子・変化・言葉等を記録することにより、一日の流れがわかるような記録となることが望ましい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送り、ケース記録が主となっているが職員間で声かけあい、情報の共有・把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が気軽に出入りできる雰囲気づくりに努めている。また、お便りなどでご様子を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや床屋を利用している。商店街の行事なども参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療との連携がある。24時間の緊急体制も確保している。	連携医療機関から月2回の往診・週1の訪看で利用者の体調管理に努めている。往診・訪看(SF～DR・訪看からの申し送り)の記録と介護記録に内容を残し、居宅療養指導でファイル化して全職員で共有している。前回の評価をうけ、家族に報告した内容をケース記録に残すようにした。介護サマリーはパソコンで入力し、いつでも確認が出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の要望や健康状態を訪問看護等に伝え、適切な看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と連絡をし、情報が途切れないよう努めている。入退院の説明には職員も同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの意向をご家族から確認し同意書ももらっている。終末期には医師よりご家族に看取りの説明を行ない同意を交わしている。	契約時にターミナル指針を説明し、同意書を取り交わしているが、状態に応じて再度確認を行う。医師から家族に今後に向けた説明があり、希望に沿ったターミナルケアに取り組んでいる。24時間連携医療機関・訪看・代表の支援があり、職員は出来る限りの支援に取り組んでいる。家族も泊まり込み、悲しいお別れの中、家族から職員に「貴女でよかった」という言葉を掛けられ、涙があふれたのと同時に大きな励みとなったという話が聞けた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師や看護師により急変時の対処法を事前に確認し、全職員に周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に来ていただき、定期的に防災訓練を行なっている。訓練時は地域の方々から声かけ、協力をお願いしている。	毎年、自主・消防署指導訓練を実施しているが、コロナ禍で後者は中止。地域住民には協力依頼をし快諾もっている。備蓄品・緊急持ち出し用品は整備されている。2年前まで広域避難場所は、水害の後、変更になった。福祉避難場所は行政に確認するとの事。緊急時の連絡はショートメールで、本部が対応する体制がとられている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき個人を尊重し尊厳を守ることがを心掛けた声掛けを行っている。	利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。場面場面で言葉かけや対応が失礼になっていないか、職員同士で注意をはらっている。書類関係の保管場所・情報開示に向けた同意書を取り交わし、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活のなかで、本人の思いが通るよう、本人に伺い、確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望が聞かれた際には、予定を組んで本人の思いが実現できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を呼び散髪をしている。男性入居者は近所の床屋を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり盛り付けを職員と一緒にしている。メニューを考えてもらう事があり食事を楽しんでもらうように努めている。	管理栄養士からアドバイスをもらい、利用者と一緒にメニューを考え、地元から購入した季節の食材を取り入れた4品ルールで提供している。利用者は力量に合わせて下準備や配・下膳、食器拭き等をしている。マイ食器使い、状態に合わせた食形態でおいしく頂けるように工夫をしている。食事制限がある利用者には特別メニューで提供している。季節の行事を大切にしていたが、昨年は中止とした。月1回は出前やテイクアウトの食事を提供。誕生日会は食べたい物を聞き提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら栄養が偏らないようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを実施している。月1度訪問歯科と連携し清潔保持を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下剤や食生活を見直し、一定のリズムで排泄できるよう支援している。	利用所一人一人の排泄パターン・チェック表・表情・仕草を把握し、トイレに誘導して排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。おむつ対応の利用者には時間ごとに対応。リハパン+パットからリハパンのみに改善した利用者がある。納豆・ヨーグルト・運動・散歩等で便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、納豆やヨーグルトなど食べていただき、食生活の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に沿って入浴できるよう心掛けしている。入浴が不可能な場合は清拭対応している。	週3~4回の入浴支援であるが、希望や汚染状態に応じ柔軟に対応している。体調に応じて足浴・清拭対応を実施している。皮膚感染予防対策は実施している。入浴剤・季節のゆず湯・しょうぶ湯で入浴タイムを楽しんでもらっている。着替えの準備は利用者自身もしくは職員と一緒にしている。巻き爪や入浴拒否の利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	月に一度を目安に、入居者様同士の交流の場として出前を取ったり、お酒やおつまみを召し上がる事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は投薬管理、服薬の支援を行ない、症状に変化があった場合、医療機関に連絡し指示を受けている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と台所に立ち好きな料理を作ったり、外食や外出に繋げている。入居者様の誕生会も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	近所に買い物や散歩に出かけている。また花見やドライブなど希望に沿った支援をしている。	コロナ禍で思い通りの外出支援ができない状況ではある。畑で野菜を収穫したり、事業所内を散歩して気分転換を図っている。野菜の収穫は利用者の楽しみの一つとなり、食卓に彩をそえている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の希望に沿って随時対応している。金銭は施設の金庫に保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じ対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的な換気や、消臭剤の設置で匂いへの配慮の工夫をしている。また四季にあわせ装飾物などを変え四季感を味わえるよう努めている。	玄関入り口には季節のシクラメンや趣のあるひょうたんが置かれ、暖かい雰囲気を出している。コロナ感染対策として定期的な換気を実施している。四季を感じてもらえるよう、装飾物の工夫をしている。トイレやふろ場の表示はわかりやすい。お正月の写真や代表の挨拶、想像便りや利用者画伯が描いた見事な絵画が飾られ、視覚に訴える効果がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に長くいる際は声掛けリビングにお誘いするなど孤立しないよう配慮している。気の合う入居者同士、同じテーブルに座って頂き会話ができる環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に以前使っていた箸、お椀など馴染みのものがあれば持参していただき、心地良く過ごせるよう工夫している。	居室入り口に名前を明示し、混乱防止に努めている。なじみのベッド・テレビ・チェスト・ソファ・テーブル・イス等を動線と安全面に配慮し配置している。葎簧・加湿器で日差しや乾燥に注意をしている。家族の写真・絵画・月刊誌を眺めながらくつろぐ利用者の姿が想像でき、居心地の良い居室となっている。レンタル業者と契約し、入居者本人用のモップで居室を毎日掃除している利用者がある。他の方は職員と一緒に掃除を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札を設け、居室が分かるよう工夫している。また、トイレの扉に看板を貼るなどし、迷わずトイレへ向かえるように工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム 想想

## 目標達成計画

作成日: 2021年2月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策について	近隣の協力体制や避難場所などの情報を家族の方々にお知らせする。利用者が安全に避難できるように体制を構築する。地震、火災、水害などに備えた避難方法をJ職員全員で共有する。	緊急時の連絡体制や避難場所の連絡をメールなどで連絡できる体制をつくる。行政の方の意見をもらい、職員全員で話し合う事。災害マニュアルを、会議等で共有できるようにする。近隣住民との交流を図れるように努める。	12ヶ月
2	26	チームで作る介護計画とモニタリング	ケース記録にある関わり方考察の記録をわかりやすく書く事。ケアプランとの連動を意識した記録。	利用者の言葉、様子、変化などわかるように記録する。日中、夜間、医療面など色分けし記録する。会議などで研修をもうけるようにする。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。